



本社工場

- 本社所在地：佐賀県三養基郡
- 事業概要：レーザー加工装置、FAメカトロ装置、制御システムの設計・製作
- 常時使用する従業員：149名
(2025年3月時点)
- 現在の売上高：34億円
(2025年3月期)
- 法人番号：8300001006891
- Web：https://www.takei-ele.co.jp/

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役
会長兼社長
武井 邦雄

先端レーザープロセスとスマートファクトリーの二刀流で世界のモノづくりをアップデート

未来のよりよい社会のために、武井電機工業は、ファクトリーオートメーション事業とレーザー加工装置事業の二つの軸で、世界の様々なマシンドラクシオンに、新たな技術の結晶となる生産設備を提供していきます。

「レーザー加工装置事業」

半導体のパッケージング技術の変革期において、先端半導体の製造工程に当社の独自技術からなる製品が採用され、急激な需要の増加への対応が求められています。そこで量産体制を構築し、エレクトロニクス分野の発展に貢献するとともに、新たなレーザープロセスの応用にも常に挑戦をしていきます。

「ファクトリーオートメーション事業」

コアコンピタンスである電気制御技術にIoTやAI技術を取り入れスマートファクトリーへアップデートした高付加価値な生産設備を提供します。そして、高効率なモノづくりを実現し、労働人口が激減する、この日本の製造業界を支えます。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

2034年の売上高100億円達成に向け以下の目標を設定する。

- ◆ 2年間で先端半導体におけるレーザー加工システムの量産体制を構築し、本製品に伴う売上を大幅に伸ばす。
- ◆ 5年間で従来のファクトリーオートメーション製品を外部生産にシフトし、開発、設計、外製管理へ内部リソースを集約する。さらにオープンイノベーションを活用して短期間でスマートファクトリーを構築できる体制にアップデートする。

課題

- ◆ レーザー加工システムの生産増強のための製造環境の整備
- ◆ 次期主力製品となるレーザー加工システムの開発環境の構築
- ◆ 開発部門、設計部門へリソース集中した体制および環境の構築
- ◆ スマートファクトリーを構築する技術開発での外部との連携体制
- ◆ ファクトリーオートメーション製品の外部生産のための管理体制の構築

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

「レーザー加工装置事業」

- ・自社における安定した品質でのレーザー加工システムの大量生産
- ・次世代基板に対応したレーザー加工システムの製品展開
- ・レーザプロセスの新たなアプリケーションとなる技術開発への継続的な投資

「ファクトリーオートメーション事業」

- ・技術面・生産面における国内の協業先との提携
- ・電気制御の技術を活かし産業用設備のDX化に向けた技術開発
- ・IoTやAI技術を導入するための外部リソースの活用

実施体制

「レーザー加工装置事業」

- 【営業体制】大口の取引を予定する顧客との半導体分野における共同展開
- 【開発体制】生産活動と切り分けた自社内の独立した開発体制
- 【生産体制】社内で高精度な組立・調整作業を実施し技術流出を防止

「ファクトリーオートメーション事業」

- 【営業体制】顧客のニーズに即した提案を行うため技術者との協力営業体制
- 【開発体制】開発・設計にリソースを集中。積極的に外部の共同開発
- 【生産体制】組立工程を外製化。生産管理および品質管理に注力

バックグラウンドとこれからのストーリー

1. 半導体業界におけるレーザー加工へのニーズ

	従来の トレンド	これからの トレンド
機能面における ニーズ	細線化のため 微細な露光 が 可能な短波長化	チップレットや3次元実装など パッケージの 積層技術 で 必要となる加工
生産性における ニーズ	ステッパーによる 一括露光での 歩留まりの改善	ウエハサイズから パネルサイズに移行するた めの 大面積処理

パッケージの積層に係るレーザー加工において当社の技術が用いられており、さらなる需要に応えることが必須である。

2. スマートファクトリーへのニーズ

	日 本	世 界
社会的ニーズ	人口減少に伴う 労働力低下 を 生産設備で補う	温暖化対策 として CO2排出量の削減 (カーボンニュートラルへ)
経済的ニーズ	生産性の向上 品質の向上 問題発生時の被害低減	

世界的に産業用生産設備は、より生産効率の高いスマートファクトリーへアップデートされていく上で、当社の制御技術が注目されている。

3. 第3の柱である制御盤・配電盤事業

水処理を中心とした公共用途の制御盤・配電盤の設計・製作

- 当社の祖業である事業で、全ての製品の**電気制御技術の基礎**
- 公共用途が中心で景気の変動を受けず長期に渡り**安定した売上**を維持
- **温暖化に伴う気候変動**により排水機場などの制御盤の**需要は増加**

安定経営を下支えする事業としての存在はこれからも変わらず

4. 10年後に向けたストーリー

- A 需要が急拡大する先端半導体向けにレーザー加工システムを**大量生産**できる環境と体制を構築し、**短期間での売上増加**を目指す。
- B ファクトリーオートメーション製品のDX化・IT化を進め、**スマートファクトリー技術**を確立し、様々な分野に対して**新しい時代の生産設備**の提案を行う。
- C 国内での実績を基に**海外へスマートファクトリーの提供を拡大**し長期的に売上を確保する。レーザー加工において**新たなアプリケーションを開発**し、主力となる製品を提供し続ける。そして必要に応じて協業する企業とのアライアンスの締結やM&Aを行い**サプライチェーン全体**での**永続的な発展**を目指す。

